

全国中国語教育協議会

ニューズレター

第15号

2000年5月10日発行

2年半ぶりに全国大会(第2回)を開催

次回大会までの2年間で発展の基礎固め

去る3月27日(月)に日本大学文理学部を会場に全国中国語教育協議会の第2回全国大会が開かれた。前回の東海大学における創立大会以来、実に2年半ぶりの開催で、隔年と会則に定めるタイムリミットぎりぎりであった。1年前のアンケート調査で、春休み期間の開催を望む声が比較的多かったため、この時期を選んだものだが、参加者は会員60、非会員14、合計74(ほかに申し込み者で欠席した方が13名あった)で、懇親会にも50名近くが参加された。当日は、すでにご案内の通り、研究報告、会員総会、懇親会等を会期1日につめこんだ日程で、会場の設営をはじめ参加者にご苦勞を強いるところもあった。しかし弱体の事務局ながら各位のご協力もあり、盛会であった。諸報告の概要は本号p.2~4に掲載する。会員総会では、本会の活動と事業について、会長から当面の計画と将来の見通しが語られた。前者については今年度活動予定として、①会報(ニューズ・レター)の発行は5月、7月、9月、12月、01年2月の5回、②セミナー(教員研修)は、月例セミナー(前期日程は前号会報に掲載、後期日程は次号掲載予定)と夏季セミナーを例年通り実施(その後、夏季については変更あり、p.4を参照)、③研究ファイル、セミナー報告等を前年度なみに刊行予定、との説明があった(今号予定の投稿案内は次号掲載、研究ファイルへの投稿歓迎)。後者については、事務局の強化、活動を全国規模で展開、成果に社会的な認知を期待、中国語教育学会設立への展望等の諸点が挙げられたが、事務処理能力と財政面からは、目下のところ現在の規模が精一杯であり、運営には手弁当と支出の節約で対応しているが、今年度はセミナーへの参加申し込みも少ない等、直面する困難があることも紹介された。

なお会計報告は省略するが、今回の全国大会は赤字で、前回大会の残金と寄付で埋めた。

新年度会費納入のお願い

本会の経費は年度会費2000円と有志の寄付金によっています。前年度の納入率は73%でした。各位の一層のご協力をお願いします。

今年度も本号に振替用紙を同封いたしましたので、お振り込みをお願い申し上げます。納入済みの方には同封しておりません。前年度未払いの方にはその分もご請求しました。

事務局のご案内

156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40

日本大学文理学部中国文学研究室内

全国中国語教育協議会

郵便振替口座 00120-0-364168

(会費・寄付金振込にご利用下さい)

なお、お問い合わせ・ご連絡等は、お手数でも郵便でお願いいたします。

【全国中国語教育協議会会務報告】

1 現況報告

- 1) 本年3月9日における会員数は229名(前年は3月27日現在で222名)。
- 2) 本年3月9日における99年度分会費納入状況は、納入済168名、未納者61名で、納入率は73.3%(前年は2月25日現在で納入率88%、未納者は25名)。本年は未納者が多い。
- 3) 会計監査は平井和之、加藤晴子の両会員により下記2・3につき3月17日に実施された。

2 収支報告(会費の部)

以下は前回(99年2月24日現在で同年3月27日の理事会に報告)後の収支状況である。

(収入)

会費	366,000	(99年分168名のほか、97年分1名、98年分10名、00年分3名、01年分1名)
寄付金	58,000	(11件:2万+1万+8千+8千+3千+3千+2千+1千+1千+1千+1千) (寄付者芳名:依藤醇、平井和之、荒屋勸、高橋弥守彦、中野達、花澤聖子、立石廣男、荒岡啓子、金子眞也、吉田隆司、宮本さおり、以上敬称略)
合計	424,000	
前年繰越	355,940	
総計	779,940	(円)

(支出)

通信費(切手・葉書等)	145,330	(支払月日 5/17, 7/19, 8/1, 1/9, 1/25, 1/26, 2/1)
事務用品(ラベル・インク・封筒)	13,256	(支払月日 6/27, 1/24, 1/25, 1/31)
事務幹事手当、会計監査交通費	64,000	(支払月日 3/27, 4/10, 9/9, 1/11)
会議費(理事会食料費)	10,578	(支払月日 3/27、注:理事会の交通費は自弁)
印刷費(封筒類)	39,000	(支払月日 2/22)
製版・印刷・製本費(研究資料等)	144,500	(支払月日 2/22, 2/25)
送金手数料(2回)	525	(支払月日 2/22, 2/25)
合計	417,189	
以上、収支差し引き残高	362,751	(円)(現金+振替貯金)

なお、以上の他に預かり金 12,500 (会費納入時の過払い金で、それぞれ問合せ中)

3 収支報告(セミナーの部)※会報第13号掲載の収支報告には誤記があるため今回訂正す。

(収入)

月例セミナー	319,000	(注) 受講料は月例セミナー 1回=¥2,500、ただし一括申
夏季セミナー	76,500	し込みは2回=¥4,500、3回=6,500、4回=8,500とする。
合計	395,500	夏季セミナー=¥4,500。

(支出)

講師謝金	280,000	(講義時間180分超30,000、180分未満20,000とする)
講師旅費	40,000	(東京~広島1名)
アルバイト謝礼	5,000	(夏季セミナー手伝い)
事務諸経費	55,458	(打合わせ諸費、夏季セミナー懇親費用)
合計	380,458	(円)
差し引き残高	15,042	(現金)

なお、他に昨年までの興水講師への謝金220,000円は預かり金として保留してある。

以上、2000年3月17日に会計監査(平井和之、加藤晴子の2氏)による監査を終了(印鑑省略)。

【会員総会報告】

1 役員選出(会長、理事の改選)

会則及び前回の選出方法に準拠し、会員総会の席上で出席の選挙権者(会員)が直接投票で会長1名、理事12名(理事22名の過半数、12名連記による投票)を選出し、さらに新会長が選挙結果をふまえ、理事10名を追加委嘱し会報に公表する、という提案が当日の審議で了承され、ただちに投票が行われた(有効総投票数47票)。終了後ただちに開票され、結果は総会後の懇親会の際に発表された。

- 1) 会長選挙結果(得票数) 奥水優 40(当選)、榎本英雄 3(次点)、以下省略、敬称略。
- 2) 理事選挙結果(得票数) 大川完三郎 32、依藤醇 30、榎本英雄 29、金丸邦三 27、古川裕 27、小寺研 26、武信彰 25、相原茂 23、陳文止23、西川優子 22、中野貞弘 20、郭春貴 18、次点以下省略。

この選挙結果をふまえ、代表理事に大川完三郎、中野貞弘、西川優子、依藤醇の4氏、理事として投票で選出の上記12氏と下記の9氏を委嘱することになった: 今西凱夫、高橋弥守彦、鳥井克之、菱沼透、平井和之、平井勝利、守屋宏則、山田眞一、吉田隆司(50音順)。

なお、理事の定数22に対し、なお欠員1となっているが、諸般の事情で委嘱が遅れたもので、次号以降の会報で経緯とともにお知らせする予定になっている。

役員の任期は会則で今回の総会から次回の総会(隔年開催)までとなっているが、便宜上、本年4月1日より2年間としていただきたい。なお、会則には役員の再任と就任時の年齢に関する規定があり、今回の委嘱にあたり一部の理事が交替したことを付記する。準備会の段階から本会の発展に多大の貢献をされた退任者の方々に心から感謝したい。

2 99年度活動報告

1)会報(ニュース・レター)の発行

第11号(1999.6.8)、第12号(9.1)、第13号(12.14)、第14号(2000.2.24)、号外(2.1)

2)セミナー(教員研修)の開催

◆月例セミナー(会場:国際文化フォーラム会議室)

4月10日(土)	入門段階の発音教育	東京外国語大学	孫玄齡	参加者数	18
5月8日(土)	初級段階の文法教育	東京外国語大学	依藤醇	"	13
6月12日(土)	中国語教科書の作り方	日本大学	奥水優	"	37
7月10日(土)	中国語学力判定法〔練習問題編〕	明治大学	武信彰	"	22
	同上	〔試験問題編〕	日本大学	奥水優	
10月9日(土)	朗読のポイント(読み方実習)	東京外国語大学	孫玄齡	"	7
11月13日(土)	ガイドラインの設定に向けて	日本大学	奥水優	"	24
12月11日(土)	中級段階の中国語教育	東京外国語大学	小林二男	"	17

◆夏季セミナー(会場:日本大学文理学部)99年7月30日(金) 主題「私の中国語教授法」

講師: 東京外国語大学 平井和之/広島修道大学 郭春貴/日本大学 奥水優 " 17

3)資料等の刊行(1999年11月発行、発送は2000年1月)

研究ファイルNo.1(藤井玲子会員)、No.2(岩城英規会員)、No.3(岩本真理会員)

セミナー報告No.1(山田眞一会員)

【第2回全国大会における研究報告の概要】

今回の大会では研究発表の公募は行わず、委嘱講師3氏による研究報告が行われた。質疑に十分な時間がとれなかったことは遺憾であるが、先に大会プログラムに関するアンケートで希望のあった、発音指導・文法指導・教授法などのテーマを取り上げることができた。以下に、当日の報告内容を参加者の針谷壯一氏に紹介していただく。

(1) 孫玄齡 氏(東京外国語大学) 语音教学中应该注意的一些问题

実際の中国語教育の経験から、教室で指導するさい注意すべき発音について、母音・子音・声調の3つの面から紹介された。その中で、日本人にとって習得の困難なeやuの発音や、有気音・無気音の区別などについては、繰り返し練習させるだけでなく、同時に、聞き取りにも留意して指導すべきであるという、興味深い指摘をされた。声調については、第三声の特徴は低く発音する点にあると強調することで、第二声との区別が容易になると紹介している。最後に、従来ふれられることの少なかったイントネーションについても言及し、声調本来の高低だけでなく、イントネーションが声調に与える影響も含めて指導をすべきであると指摘された。この点は、従来の発音指導の盲点となっている点であろう。

(2) 渡邊晴夫 氏(國學院大学) 中国語教育のカリキュラムと教材について

大学で行われている中国語教育について、いくつかの大学のカリキュラムや教材を紹介しつつ、現在の中国語教育が抱えている諸問題を提起された。専門課程と第二外国語とでは、自ずから教育の内容が異なってくるわけであるが、この中で紹介された各大学での授業配分や、独自教材か市販教材かなどの例は、大学でカリキュラムを組む立場の方には参考となろう。また、同時に、量や質の面でどのような目標を設定するか、その目標にあった教材をどのように用意するか、複数の教員をどのように関連させて授業を組むかなどの点は、今後の課題として検討していくべき問題であると指摘された。

(3) 奥水優 氏(日本大学) 初級段階の文法ガイドライン——《高校中国語教育のめやす》によせて

初級中国語であつかうべき文法項目のうち、どのような内容をどのような形で中国語教育のなかに取り入れていくかという点について、《高校中国語教育のめやす》に挙げられている文法項目と対照して紹介していく形で進められた。たとえば、字と語の違い、複合語の構造、反語文、接続詞を用いない複文、いわゆる受事主語や述詞性主語のような文法項目を、中国語の特徴の一つとして、何らかの形で教材に取り入れていく必要があると指摘された。このなかで主張されたように、一定の必要な文法項目を、文法用語をなるべく使わず、自然な形で学習者に体得させていく必要がある点は、ややもすると到達点のはっきりしない中国語の教育においては極めて大切なことであると感じた。

☆なお、今年度活動予定、協議会の財政基盤、将来像等の大会報告はp.1で取り上げる☆
2000年度夏季セミナーについて 例年7月に開催の夏季セミナーは、事務局の都合で、今年度にかぎり中止し、後期の月例セミナーを9月～12月にわたり合計4回(1回増)実施することになった。後期セミナーの詳細日程は7月初旬発行予定の次号会報に掲載する。